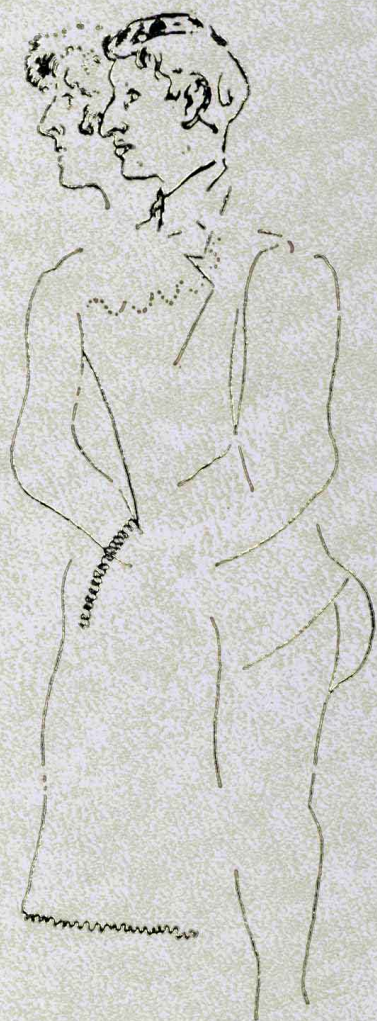




イヴァン・ゴル／クレール・ゴル詩抄

堀口大學訳

『鷺鷥集』限定五〇〇部

一九六九年十一月二十五日発行

定価三、〇〇〇円

発行人／高橋謙

発行所／株式会社白凰社

東京都千代田区神田神保町一―二〇

振替・東京九二二四一

印刷／大文堂印刷株式会社

製本／和田製本工業株式会社

イヴァン・ゴル
クレール・ゴル
詩抄

鴛鴦集

堀口大學訳

白鳳社

目 次

イヴァン・ゴル詩抄

詩集『新オルフェ』(一九三三年)より

太陽

出発

時計塔

日ごと

無線電話

詩集『死の地下鉄』(一九三六年)より

小さな溜息

十二歳

乗客

自転車のり

頭

運転休止

手

18 17 16 15 14

28 27 26 25 24 23 22

不幸にも

個人

心のなやみ

母性

眠る人々

詩集『馬來乙女マニヤナの歌える』(一九三四年)全

1 あなたの舟が……

2 籐の若芽の……

3 雷さまが……

4 あなたが近づいて……

5 茴香のように……

6 生れた時から……

7 あの楠の木の……

8 あたしがりたく思うのは……

9 赤胡椒の木が……

10 百本のレモンの……

11 あなたに知っていただいて……

34 32 31 30 29

49 48 47 46 44 42 41 40 38 37 36

- 12 あたしは壺……
13 王者の道を……
14 あたしは土地……
15 あたしが誰だか……
16 火山が唇を……
17 あたしはあなたの……
18 あたしの乳房の……
19 主よ おんみ……
20 死よりも深いあなたの……
21 あたしの門の……
22 あたしは砂でしか……
23 昨夜一羽の……
24 鈍重な水牛たちに……
25 あたしの恋人は……
26 あなたを迷わす……
27 あたしは七つの……
28 あなたを思っ……
29 あなたは貪婪な……

72 71 70 69 67 66 64 62 61 60 59 58 56 55 54 53 52 51

詩集『宿なしジャンの歌』（一九三六年）第一集全

- 1 地球のまわりを七まわり
宿なしジャンは独り行く
- 2 橋の上の宿なしジャン
- 3 山巔の宿なしジャン
- 4 鏡の前の宿なしジャン

- 30 あたしの恋人は漁師……
- 31 あたしは無花果の……
- 32 いつもの朝と……
- 33 香ばしい雪の……
- 34 魔法使の……
- 35 神々よ……
- 36 素馨の白い……
- 37 どこやらで生姜の……
- 38 あたしの肉の……
- 39 死んだ女の肉体に……
- 40 あらゆる花を……

5 宿なしジャン

さすらいのユダヤ人と出合う

6 ドン・ファン宿なし

妻もなし

7 春と死に真向きの宿なしジャン

8 宿なしジャンの地獄めぐり

9 宿なしジャンの未来宣言

詩集『反ばら』（一九六五年）より

彼女たちは

ソロモンによれば

夜の映写幕の上に

こわがるな

魔女見習

君の夢たちを

牧場へ連れ出す

いやだ僕は死にたくない

君を愛してた

詩人の職業

172 170 168 166

165 164 162 160 158

149 142 134 127

118

クレール・ゴル詩抄

愛の詩集『一万回の朝ぼらけ』（一九五一年）より

ありとあらゆる軟水は

あたし怖いの……

どこにあたしが居ようとも……

今夜は外出なさらないで

ご自分の頭の上を……

あたしを引裂いておくれ

あなたに愛されて十年ね

以前あなたはあたしの名を

春です

なぜしておかなかったのでしょうか

あたし一生……

あたし街にも……

198 196 194 192 190 188 186 184 182 180 178 176

詩集『反ばら』（一九六五年）より

五月よ やさしい革命家よ

電気ショート

時間の貯金

女奴隷

赦せ！ とあなたは……

額の裏を映写幕に

容赦

子守唄

解説

イヴァン・ゴル略年譜

クレール・ゴル著作年表

絵
マルク・シャガール

252 248

225

220 218 216 212 210 208 204 202

イヴァン・ゴル
詩抄



chagall

新オルフェ

LE NOUVEL ORPHÉE

太陽

パン屋が夜明けを匂わせる

ごらん 彼らの見世窓に

刈った麦畑のうしろに

今 のぼるのだ

一個三斤の大きなパン

焼立ての ほやほやの

黄金^{きん}いろの

太陽

Soleil

出 発

太陽は自転車にのった

彼は欧州路をかけめぐる

人々は彼を見ようと目をひらく

美しい小鳥は田園に警報する

牛乳配達は市の半鐘をうちならす

草の葉は堇の恋が

頭へのぼるのを感じる

でも海へ行く前に

桃いろの小川は

木苺のやぶのうしろで

小便をたれる

Départ